



須田国太郎《牡丹》1941(昭和16)年 新収蔵・初公開



十一面観世音菩薩像 平安時代(10世紀) 重要美術品

陰翳 礼讃

いんえい
らいさん

闇に輝く絵画の光

2021年 4月29日(木)祝
 9月26日(日)

会期中無休

開館時間 | 午前9時30分—午後4時30分
 (入館は午後4時まで)

入館料 | 大人1,000円 / 学生500円 / 高校生以下無料
 * 仏教館・近代館の共通券です
 * 団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
 Uehara Museum of Art

2021年
 4月29日(木)祝
 9月26日(日)

会期中無休

開館時間 | 午前9時30分—午後4時30分
 (入館は午後4時まで)

入館料 | 大人1,000円 / 学生500円 /
 高校生以下無料
 * 仏教館・近代館の共通券です
 * 団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
 Uehara Museum of Art

陰翳 礼讃

いんえい
らいさん

影に浮かぶ仏の美



アンリ・マティス《赤い屋根のある風景》1920年頃



小林古径《芥川》1926(大正15)年頃 **新収蔵・初公開**



小林古径《杪秋》1951(昭和26)年 **谷崎潤一郎 旧蔵**



阿弥陀如来像 鎌倉時代(13世紀)

影に浮かぶ仏の美

陰翳礼讃

闇に輝く絵画の光

作家・谷崎潤一郎は1933(昭和8)年、随筆『陰翳礼讃』を著しました。そこでは近代化の波に覆われつつある日本が直面する光と影についての葛藤と考察が綴られています。それから約九十年後の現在、日常を取り巻く光はさらに明るさを増し、影はその存在を潜めています。しかし、身の廻りを見渡すと至るところに影の存在があることに気づきます。身近なうつわやベン、そして自分の手を改めて見つめると光の傍に影があらわれます。そして、その影に気づけば、ものの存在が今までとは異なったかたちであらわれてきます。

「美と云うものは常に生活の実際から発達するもので、暗い部屋に住むことを餘儀なくされたわれわれの先祖は、いつしか陰翳のうちに美を発見し、やがては美の目的に沿うように陰翳を利用するに至った」。谷崎は日本における美のあり方について、そう語っています。例えば、黄金が日本家屋の暗がりて

放つ美しさを次のように述べています。「庭の明かりの穂先を捉えて、ぼうつと夢のように照り返している」、「私は黄金と云うものがあれほど沈痛な美しさを見せる時はないと思う」。金箔が施された仏像は、もともとお堂や厨子の暗がりて拝まれていました。そうした仏像は陰翳の中でこそ本来の姿があらわれてくるのかもしれませんが。

絵画もまた、もともと明るい壁に飾るものではなく、薄暗い建物内で鑑賞されていました。特に日本家屋では床の間で鑑賞する掛軸が「陰翳に深みを添える」ものとして尊ばれてきました。そうした歴史的背景を持つ日本画には、暗い建築空間に広がるような繊細な余白の表現が殊のほか美しくあらわされています。

このような陰翳の感覚を持つ日本人にとって、西洋の油彩画を描くことはひとつの新たな挑戦でした。京都帝国大学で西洋の美学美術史を学んだ須田国太郎もそうした画家のひとつです。須田は1919(大正8)年にスペインへ渡り、ブラド美術館などで伝統絵画の陰影表現を学びました。帰国後、京都にある日本家屋の四畳半の居間で制作し続けた須田は、日本独特の深い陰翳を纏った油彩画を生み出していきます。

本展では上原コレクションの仏像や絵画から陰翳の中に潜む美の魅力に注目します。闇を柔らかく照り返すような十一面観世音菩薩像や阿弥陀如来像をはじめ、日本の物語に潜む闇を余白に描き出した小林古径の日本画、油彩画の影に独特の深い存在感をあらわした須田国太郎らの絵画などを紹介します。また、谷崎潤一郎が旧蔵した小林古径《杪秋》も展示します。現代の陰翳の中に浮かび上がるジャンルを越えた美の世界をお楽しみいただければ幸いです。

関連イベント

アトリエトーク：学芸員による展覧会のみどころ案内

展覧会『陰翳礼讃』について、展示作品の魅力や展示・照明の裏側など学芸員がアトリエにてお話しします。

日時 5月15日(土)、6月19日(土)、7月17日(土)、8月21日(土)、9月18日(土)

各日11時～、14時～ 所要約45分 聴講無料

場所 上原美術館アトリエ 申込 不要、当日先着順 定員：各回10名程度

- お車で 新東名高速道路 長泉沼津ICより 下田方面へ 1時間40分
- 鉄道・バスで 東京駅より特急踊り子号 2時間40分 伊豆急下田駅下車 同駅より堂ヶ島方面行バス 20分 相玉下車 徒歩15分

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
Uehara Museum of Art

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341
Tel. 0558-28-1228 www.uehara-museum.or.jp



新収蔵



新収蔵となる平安時代の狛犬を初公開します



オディロン・ルドン《花瓶の花》1910年頃



須田国太郎《静物》1935(昭和10)年



須田国太郎《烈日下の鳳凰堂(平等院)》1936(昭和11)年